

# 2024年3月2日(土) 3日(日) 伊豆大島 三原山 (758 m) 椿祭り・大島観光

～ Report by 吉松、池戸、高橋(雄) ～

## 初日 (3月2日) 三原山

伊豆大島は2~3月は椿祭りで有名で、その花見を兼ねて三原山ハイキングを一昨年、昨年と実施している。大島の椿の種類と量は圧倒的で、その感動を再び味わうべく、3年連続で今年も実施した。さらに今年は椿祭りに加えて、大島をレンタカーで一周し、観光して大島をフルに味わう企画とした。参加者は10名。

(熊本さん・塩野さん・能勢さんご夫妻・川島さん・池戸さん・吉松さんご夫妻・中島さん・私(高橋雄))。伊豆大島へは東海汽船のジェット船(水中翼船)で、それぞれの最寄りの港から向かう。

- ・東京・竹芝からの便には塩野さん・川島さん・私の3名+同船の経由地の久里浜から、熊本さん・池戸さん・中島さんの計6名で向かい、
- ・熱海からの便には能勢さんご夫妻、吉松さんご夫妻の4人が乗船して大島に向かった。

### 3月2日(土)



8:35 東京・竹芝から塩野さん、川島さんと私の3名が乗船し出港。

昨年は強風による高波で船が途中で引き返し、欠航となってしまったが、今回は大荒れではなく、船は順調に航行する。



9:05 久里浜の乗船待合所で熊本さん、池戸さん、中島さんが合流し、東京からの船便を待つ。



9:30 東京からのジェット船が久里浜港に着岸。



我々の座っている席は乗船ブリッジのすぐ近くで、熊本さんたちが乗船して来るのが見えた。お互いに見つけて手を振った。



9:35 船内で合流。



【一方、ここからは熱海組、吉松さんのレポート↓】

椿祭りと大島観光に期待を膨らませて、能勢さんと吉松夫婦4人は熱海港から伊豆大島へ向かうことにしました。8時20分頃に熱海駅で待ち合わせて、タクシーで熱海港に向かいました。

やや風はあるものの、天候は良好です。



我々が乗船する東海汽船ジェット船は、既に熱海港に接岸していた。

出船は9時05分



8時55分

乗船開始のアナウンスが流れ、乗り場に向かった。

椿祭りの真最中にもかかわらず、乗船客はあまり多くは無いようだ。





乗船に向かう吉松夫婦の写真を能勢さんが撮ってくださった。



ご覧の通り乗船客はガラガラ



時刻通り、9時5分に熱海港を離岸

写真の青色の旅館は昨年の忘年会で泊まったウオミサキホテル



我々のジェット船は伊東港経由であるため、途中で伊豆半島に近づいた。

ゴルフファンには垂涎の的である川奈ゴルフ場が船上から良く見えた。

時刻通り、10時5分には大島岡田港に到着した。

港ターミナルで寛ぎながら、久里浜港から向かってくる熊本さん他5人の一行が到着するのを待つことにした。



10時40分、6人が乗ったジェット船が到着して、船から降りてきた。

今回の仲間10人が揃った。

【熱海組、吉松さんのレポートはここまで↑】



ここからはレンタカー2台に5人ずつ分乗して目的地に向かう。

予約したトヨタレンタカーの営業所は港から離れたところにある。運転する吉松さんと私（高橋雄）はそこへレンタカーの送迎車で向かった。

残る8人は港の待合室で待機。

←今回の女子軍団5人衆。



トヨタレンタカーで借用の手続きを終え、レンタカーで港に戻り、待機していた8人を乗せて、

11:25 三原山山頂口に向けて出発。



11:53 三原山山頂口（標高 556m）着。  
先ずは茶屋で昼食。





ラーメンや、名物・あしたばの天ぷらのざるそばなどでお腹を満たした。



12:49 これからめざす三原山をバックにスタート写真



天気予報では晴れるはずだったが、曇って気温は低く、時々小雪がぱらついてくる。しかし風は弱い。  
天気は明日の方がよさそうだが、明日は風が強い予報なので、予定通り今日三原山に登ることにした。

山頂口は三原山の外輪山にある。  
コースの歩き始めは内側へ 30mほど下る。



その後は内輪山へ向けて平坦な道となる。  
山頂の三原神社までは舗装された遊歩道だ。



本日のコース。



遊歩道脇にこの植物がたくさん生えていた。

[オオバヤシャブシ](#)というらしい。



三原山は過去何回も噴火が繰り返されている。「[パホイホイ溶岩](#)」があった。

(表面が滑らかな溶岩)







ところどころに火山弾よけのシェルターが設置されている。



さらに進むと「[アア溶岩](#)」があった。  
(表面がゴツゴツした溶岩)



アア溶岩を過ぎると内輪山への登りとなる。



だんだん登りの勾配がきつくなってくる。

能勢さんの奥さん(邦子さん)が咳込みながら苦しそうに後ろの方から登っている。数日前から熱はないが咳が止まらず、医者には花粉症と診断されたとのこと。花粉症が喉にきて喘息気味になっているようだ。





13:22

山頂まであと 100m地点で邦子さんの足が止まった。

咳で息が苦しくて登れないとのこと。

ここから一人で山頂口まで引き返し、お昼を食べた茶屋で待っていることになった。



13:25

急坂を上りきったところ（標高 660m）

に三原神社がある。



三原神社の社殿は、噴火口からあふれ出た溶岩に、なぜか飲み込まれず、残ったそうで、ここは靈験あらたかな厄除けのパワースポットになっている。



三原神社を過ぎると「ゴジラ岩」 ↓ 展望所がある。







ゴジラ岩展望所の先には展望台↓がある。  
二階建てで、1階はトイレだ。  
←屋上展望台からの景色



展望台からは 360 度のパノラマが楽しめ、晴れていれば伊豆半島や富士山なども見通せるが、残念ながら曇っていて見えなかった。しかし、伊豆諸島は見えた。

13:53 展望台の下で三原山の最高点、剣ヶ峰をバックに集合写真を撮った。



展望台より先はお鉢巡りの登山道になる。  
塩野さんと私はここで引き返して山頂口に戻り、邦子さんと 3 人でホテルに先に入る。







塩野さんと私が山頂口に戻る途中、何かが遊歩道を横切った。[キョン](#)だった！↓  
(↓写真はwebより転載)



ここまで↓よく登ってきました！



14:31 山頂口に戻った。お疲れ様！  
先に戻って茶屋で待っていた邦子さんとも無事合流できた。



塩野さん、能勢邦子さん、私の3人はレンタカーで本日の宿、[大島温泉ホテル](#)着。(15時ごろ)  
チェックインし、塩野さん、邦子さんは早速温泉に。  
私は山頂からお鉢巡りをしてホテルまで歩いてくる他の7人の到着を待った。

【一方、ここからはお鉢巡り組、池戸さんのレポート↓】

三原山頂口から大島温泉ホテルまで歩くメンバーは、熊本さん、能勢さん、吉松夫妻、中島さん、川島さん、池戸、の7名です。(このパートレポートは池戸)



山頂の展望台から周辺景色を見て、集合写真を撮った後、三原山→中央火口→剣が峰を通り大島温泉ホテルまで行くメンバーで出発、ほどなく道標が出てきた。



三原山は現在噴火の兆しはないものの、サイレンで知らせるようになっているようです。避難ドームも数か所に有った。





海に浮かぶように見える  
利島と新島



登り初めての景色



それぞれのペースで歩いています！



1951年～1952年の噴火の際にできた三原新山（標高758m）から望む中央火口





南側の火口展望所から火口の底を間近に見ることができます（この火口は三原山(島の最高峰) 全体の火口と区別して「火孔」と記されることもあります）。1974年の小噴火までは、今より鋭角かつ深かったこの火口底までマグマが上がってきており、火口上空の雲や噴気が赤く染まる「火映現象」が見られました。

1986年噴火では溶岩湖が生じて完全に埋め立てられましたが、1987年11月に発生した爆発的な噴火で陥没し、壱穴状の火口が再生しました。その後、崩壊が進み、現在の火口の大きさは直径 300～350m、深さ約 200m です。火口壁の上部には、1986年に形成された溶岩湖の断面を示す柱状節理が見られる



柱状節理



中央火口をバックに!



展望所に設置されている、中央火口の説明版



中央火口をバックに個人撮影







B2火口方向に下る



## B2火口

1986年、11月21日16時15分、伊豆大島としては565年振りの「割れ目噴火 fissure eruption」が発生しました。まず三原山北側カルデラ内に、南東-北西方向に約1kmに渡って複数個の火口が開きました。この火口列が並ぶ方向は、富士山や箱根山の側火口が集中する方向と同じです。

火口列は「B火口列」と名付けられ、個々の火口は南東側から順に「B1火口」、「B2火口」...と番号が付けられました。火口の周辺には火山弾やスコリア（火山噴出物の一種で、塊状で多孔質のものうち暗色のもの）が厚く堆積しています。このうち、B1-B4火口は三原山の一部に新たに穴を開けてできた火口であるため、三原山の内部構造を観察することができます。B3-B8火口からは特に激しい溶岩噴泉が立ち上がり、高度約1,500mまで達しました。この高さは、観測された溶岩噴泉としては世界最高値です。







剣ヶ峰を通り 下山中



下山中に帽子に積もるほどの雪が舞い始める



川島さん、途中停止と思ったら、靴底がはがれた！ 中島さんが靴に暫定処置。  
ひもで縛って対応した。

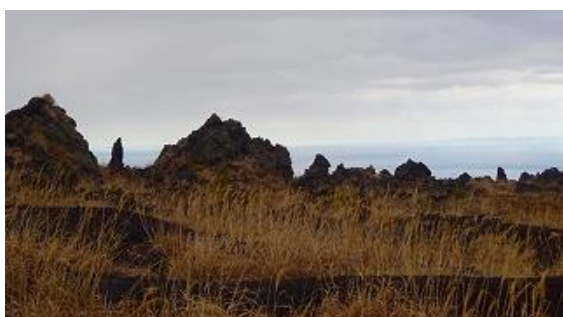


B1-B4 火口を見上げる



B1-B4 火口からの噴煙

火口列は「B 火口列」と名付けられ、個々の火口は南東側から順に「B1 火口」、「B2 火口」...と番号が付けられました



ジオロックガーデンの景観





[ホルニト?](#)



ロックガーデンを過ぎると標識が現れる



樹林帯に入る



花の様な新芽



こもれびトンネルを行く



トンネル内で見た椿



大島温泉ホテルへと続く舗装道路



ホテルに到着





ホテルに到着すると雄さんのお出迎え

ハイキングコースは、山を下ると、ジオロックガーデンとなり

遊歩道「温泉ホテルコース」のうち、「ジオ・ロックガーデン」から温泉ホテルの間には「再生の一本道」という愛称が付けられました。さらに、再生の一本道のうち、草本～中木が育つ区間には「いつか森になる道」、中高木が育ちトンネル状になっている区間には「こもれびトンネル」と名付けられました。

【お鉢巡り組、池戸さんのレポートはここまで↑】

16:02 お鉢巡りをして大島温泉ホテルまで歩いた7人も到着。

山頂展望台で別れたのが13:53だったので、2時間9分かかったが、ほぼ予定通り。

吉松さんと私は、私のレンタカーで山頂口まで戻り、吉松さんのレンタカーも引き上げて再びホテルに戻った。



そして、なにはともあれ温泉入浴。

このホテルの露天風呂からは三原山の全貌を見渡せる。

(←写真はwebより転載)

これがその実写↓。重く垂れこめていた雲も薄れ、青空も見えて夕日も差し込んできた。

これを見ながらのんびり浸かる。お湯加減も熱すぎず心地よい。

あの山のてっぺんから歩いてきたと思うと感慨もひとしお。







17:24 恒例の風呂上がりの乾杯！



18:00 そして夕食。



希望する料理の内容によって2班に分かれた。

こちらは名物の椿フォンデュ。  
椿油での串揚げ。伊勢海老もデー！







こちらは鉄板焼き。



デザートもいただいて、



お腹いっぱいになったが、  
さらに部屋に戻ってアフターディナー。



21 時前にはお開きとなり、寝る前にまた一風呂。

ホテルは屋上を「三原山テラス」と称して開放している。  
温泉で温まって体温が高いままでは寝付けないので、冷やすべく出てみたら、星がいっぱい。

(←写真は web より転載)

上空を通過する飛行機や、対岸の夜景、漁船や航行する船の灯りも見えて大満足。

明日は天気も良さそうだ。青空に映える椿の花園を期待して就寝。 z z z z z . . .